

# 20年度事業計画 「施設全体」

## 目標

- 1) 利用者の尊厳と自立を支えるケアの確立
- 2) 職員資質向上
- 3) 多職種間で協働し在宅復帰をめざす
- 4) 増床部分のスムーズな運営開始を目指す。

年間計画	具体的な計画	実施時期	評価の視点
1、ユニットケアの精神を継続し個別ケアの充実に努める。	①個性を尊重し、自立への可能性を伸ばす為のケアプラン作成を実施する。	年間	1、利用者全員のケアプランを立案・実行できる。
	②ケアプラン実行のためにチーム内で検討し協力する。		2、カンファレンスで問題提起でき解決につながる。
	③カンファレンスを有効に活用しケアの充実を図る。		
2、職員の資質向上	①サービス提供施設である事を念頭におき、接遇の改善をめざす。	年間	1、態度、言葉使いの改善がなされる。
	②各自の年間目標達成に向け行動する。		2、年間目標の達成。
	③資格取得をめざす。		3、全員が研修参加ができる。
	④研修へ積極的に参加し自己研鑽に努める。		
3、職種間で協力しあい在宅復帰をめざす	①各職種でアセスメントした結果をカンファレンスで検討。目標設定をする。	年間	1、在宅生活へのスムーズな移行がなされる。
	②退所後に向け訓練する。		2、職種間で協力体制がとれる。
	③安心して生活できるため在宅での環境整備を行なう。		
4、安定した施設経営への協力	①利用率、入所率の維持向上に協力する。	年間	1、稼働率の目標値の達成
	②個々のニーズに合ったケアの提供ができることでリピーターを増やす。		

5、各委員会活動の活発化を図る。	①常に問題意識を持ち、委員会からの情報を発信していく。	年間	1、定期的活動が行なえる。
	②定期的な委員会活動とその報告ができる。		2、委員会からの新しい提言ができる。
6、増床に向けての体制作り	①利用者に迷惑をかけず新体制をスタートさせる。	年度後半	1、増床部分のスムーズな開始
	②職員間で勤務体制、業務体制、安全対策などについて十分検討を重ねる。		2、稼働率をあげることができる

## 20年度事業計画 「看護部」

### 目標

- 1) 利用者の健康状態を把握する為看護業務の検討をする
- 2) 看護師としての資質の向上を図る

年間計画	具体的な計画	実施時期	評価の視点
1、老健の看護業務の検討	① 看護リーダー業務を円滑に行う	年間通し	①看護業務が整理でき余裕を持って仕事ができる。
	② 業務整理し増床後の業務体制に備える		②増床後もスムーズに業務が遂行できる。
2、利用者の健康状態把握をする	① 他職種と協力、カンファレンスなどで有効な情報交換をする、	年間通し	①看護リーダーは利用者の健康状態を把握できている。
	② 再入所時も継続して関わられるよう記録類の整備・充実を図る		②活用できる記録類がある。
	③		③状況変化時適切な対応ができる。
3、施設運営への協力	① 利用者の医療に関する施設負担への配慮をする	年間通し	①診療材料費・薬品費の抑制ができる。
	② 持参薬のチェックを行う		②施設での適切な看護が提供される。
	③ 入所判定基準の整備にあたり看護師として提言する		③本来の老健対象の入所基準が明確になる。

4. 看護師としての資質の向上をめざす	① 看護部院内研修や看護協会の研修に積極的に参加する	年間通し	①一人一回以上の外部研修参加できる。
	② 老健施設内・外の研修へ参加する		②伝達講習ができる。
	③ チームケアの中で看護師としての役割を果たし、必要時指導を行う		③チームケアの中で看護師からの提言が実行される。

## 20年度事業計画

### 「入所」

#### 目標

- 1) 利用者の尊厳と自立を支える個別ケアの充実
- 2) 利用者・家族・職員間の和を大切にする
- 3) 職員の資質の向上を図る

年間計画	具体的な計画	実施時期	評価の視点
1. 一人ひとりを大切に、家庭復帰に向けた個別ケアの充実	①利用者一人一人を尊重する接し方の見直し。	年間通じ	1.利用者本位の視点からケアプランの作成ができています
	②利用者がその人らしい生活を送れるためのケアプランを作成する。		2.モニタリングが確実に行われ、記録されている
	③ケアプラン作成からケアの提供・モニタリングまでがスムーズに出来る。		3.ケアプランに沿ったケアの実施と評価がされている
	④入所時から退所後を見越したケアプランを作成する。		
2.他職種との共同によるケアの提供	①生活リハビリの視点からリハスタッフに協力しADLの改善を図る。	年間通じ	1 個別リハビリ計画が実施できている
	②利用者の目標を共有するためのカンファレンスを開催し記録に残す。		2.他職種とのカンファレンス内容の記録がある
3 職員の資質の向上	①施設内、外の研修に参加しケアに生かす。	年間通じ	1.施設外研修に参加し伝達講習ができています
	②接遇について学習する。		2.施設内研修に参加している
	③資格(介護福祉士・ケアマネ・社会福祉士等)取得に努める。		3.資格が取得できる

4 周囲の人に対する優しい配慮	①笑顔で挨拶をする。	年間通じ	1.笑顔で接することが出来た
	②報告・連絡・相談を密に行なう		2 建設的な意見交換が出来るようになった

## 20 年度事業計画 「居宅介護支援」

### 目標

- 1) 利用者の尊厳と自立を支え、安定した在宅生活が維持できるようにケアマネジメントを通じ支援する。
- 2) 介護支援専門員としての資質向上に努める。

年間計画	具体的な計画	実施時期	評価の視点
1 個々の利用者の状況やその変化に応じた利用者本意のケアマネジメントの実践。	①保健・福祉・医療の専門職との連携。	1年間	・専門職との連携が取れており、利用者とのニーズと自立を支えるケアプランが作成されている。
	②アセスメントからサービス計画、実施状況とモニタリングまでの流れの確立。		
	③家族と情報を共有し、利用者のニーズと自立を支える、ケアマネジメント。		
2 居宅介護支援事業の拡大と充実化。	①居宅事業所の設備の充実。要支援者の対応。 ・静かな場所の確保。相談スペースの確保。 ・一人1台PCの確保。	1年間	・在宅を支える居宅介護事業所として信頼されている。
	②地域への情報の提供。(広報、各事業所を通して)		
3 家族が安心して日常生活を継続する為の介護負担の軽減に向けた支援。	①老健いこいの各種サービスの計画的な利用。	1年間	・家族の介護負担の軽減になっている。
	②各種介護サービス事業所との連絡調整。 ・短期入所、通所リハ、定期的な入退所。		
	③家族への介護支援情報の提示。		

4 地域のサービス事業所、依田窪病院地域医療室との連携の強化。	①他サービス事業所との連携。	1年間	・地域のサービス事業者への情報提供と意見交換が出来る。
	②サービス担当者会議の開催。		
	③地域医療室との連携の強化。訪問看護(24時間体制)のケアプランへの反映。		
5 専門職としての資質向上に努める。	①各種研修への参加。	1年間	・研修したことが日常業務に反映されている。
	②年間テーマを決めての研修。		
	③専門職としての資質向上。		

## 20年度事業計画 「支援相談員」

### 目標

- 1) 他職種との連携を強化し、一人でも多く在宅復帰できるよう努める
- 2) 利用者・ご家族の方が安心し、充実した施設生活が送れるよう支援する

年間計画	具体的な計画	実施時期	評価の視点
1. 在宅復帰に向けた他職種との連携を強化する	①在宅支援事業所との連絡、調整し、事前に情報提供する	随時	ご家族との信頼関係は築けたか。
	②昨年家族会立ち上げができなかったため、本年度実施し、家族との関係を深める		在宅復帰率は向上されたか。
	③他職種と積極的に在宅復帰にむけ検討し、ご家族にアプローチする		
2. 自立した在宅生活が継続できるよう支援する	①退所後の短期入所・通所リハビリ・訪問リハビリのサービス提供する	随時	在宅生活が継続できているか。
	②在宅支援事業所との連携を図る		在宅支援事業所との連携はとれたか。
	③退所後のご家族への介護負担の軽減に努める		

3. 稼働率の向上に努める	①新規利用者の獲得に努める	随時	平均入所率を98%とし、安定した入所率を維持することができたか。
	②空床時の居宅介護事業所、病院への情報提供を早急に行う		
	③広範囲からの利用者を受け入れ、リピーターを増やす		
	④増床後の入所率減少にならないよう、事前に調整を図る		
4. 地域に密着した施設を目指す。	①行事には地域住民の方もお誘いし、交流を図る	随時	地域との関わりを深めることができたか。
	②広範囲からのボランティアを受け入れする		
	③地域住民の方々に老健の役割を理解して頂く		